

社会貢献活動の質的評価研究会（第1回）

「質的評価」研究会の論点について

2010年3月3日

上田 健作

1. なんの質を評価するのか？

活動「成果」の質、活動「プロセス」の質、「組織」の質・・・・・・・・
全て・・・「成果」に対する相関が問題になる

2. 評価対象は、個々の活動団体なのかNPOセクターなのか？

評価対象の違いで、評価の果たす機能が違ってくる。

1) 個別の団体が対象の場合

行政の立場から・・・助成対象の選定や協働パートナーの選定のために機能する。
団体自身の立場・・・組織のイノベーションに役立つ・・・これは自己評価課題。
市民や企業の立場・・・・・・・・寄付先の選定に役立つ

2) セクターが対象の場合

行政の立場・・・社会貢献活動支援政策の妥当性等の評価
セクターの立場・・・セクターの発展段階評価
市民や企業・・・社会貢献活動支援政策に対する評価

3. 評価方法

1) 個別の活動または団体評価

- ①評価基準は？
- ②評価指標はなに？

2) セクターの評価

個別活動または団体の評価の集計をセクターの評価とできるか？

第1回 質的評価検討会（社会貢献活動支援推進会議小委員会）

日時 平成22年3月3日 13時30分～15時30分

場所 高知県庁北庁舎2階会議室

出席者 上田委員、新藤委員、大槻委員 事務局3名

【質的評価の指標をつくる目的】

- ・ 社会に対する説明（NPO支援の根拠となるものを示す）
- ・ NPOの自己評価を達成するための仕組みづくり

【評価の考え方】

- ・ 社会にもたらす効果。どれだけ役に立っているか。市民社会の指標。
- ・ 皆が納得する評価の仕組みをつくる必要がある。

【評価方法】

- ・ 個々の団体へのヒアリング→評価指標を作成してみる。→何種類か作成→施行
→検証（施行→検証の繰り返し）
- ・ 評価指標チェックする様式、マニュアル作成が必要。
- ・ 第三者が評価するとなると、どこがやるのか→新しい組織必要？

【評価指標について】

- ・ 掲げたミッション・ビジョンに対してどのような活動をしているかを評価。
- ・ ミッションは多様であるべきで、許容するべき。
評価の対象とするには、問題がある。（「〇〇が良い」として評価すると統制になってしまう。）
- ・ 団体同士の繋がり（参加者、メンバー）、連帯性というものも日本では1つの指標になるかもしれない。
- ・ 団体のレベルと財政規模は、比例するケースが多いが、一方では、財政規模が大きくなると団体が官僚化する等、団体として評価が下がるケースも出てくるので、それをどう指標に反映させるか難しい。
- ・ P D C A サイクル（plan-do-check-act cycle）が団体内で機能しているかどうかというのは団体进行评估する上で指標になる。（P D C Aをチェックする様式、マニュアル等必要。）
- ・ 自己評価能力を問うことも評価の指標になる。

【その他意見】

- ・ N P O活動を分野別に評価するということも考えられる。
その場合、専門分野からの評価とN P O活動としての評価があり、ここでは後者。
- ・ 団体としての評価が、他国では寄付や助成金受給の重要な要素となる。日本で評価を実施する際にもその動機づけとなる仕組みを考えることも大切。
- ・ 団体の評価の集合＝セクターの評価とはならないが、セクターの評価を行うためには、団体の評価を実施することが必要となる。
社会貢献活動支援推進会議で検討していくべき評価は、セクターとしての評価である。
個々の団体の評価については、第3者としての評価機関で実施するのが好ましい？

【今後の進め方】

- ・ 社会貢献活動支援推進会議の小委員会（専門的事項の調査研究等のため設置）である質的評価検討会で検討し、その内容を社会貢献活動支援推進会議で諮っていく。

* P. F ドラッカー著「非営利組織の成果重視マネジメントーNPO・行政・公益法人のための「自己評価手法」」等を参考に検討していく。